乳児の養育における母性意識の構造に関する研究

研究第7部　高　橋　種　昭
研究第8部　星　　美智子
研究第6部　金　子　一　宏
管　理　部　福　島　和　夫

Ⅰ　目　　的

本研究の目的は，現代の母親の母性意識の構造を分析し，その実態を明らかにしようとするものである。現代の核家族化，生活様式の都市化，価値感の多様化，そして情報化社会の現実――こうした諸条件に支えられ，変化しつつあるといわれる母性意識について，現在もっとも養育に時間と心を費している乳児をもつ母親を通して解明する。

Ⅱ　方　　法

(1)　手続き

1)質問紙は，質問をつぎの五つにわけて作製した。

A.母親の子ども・少女時代について。B.現在の夫との生活，母体の健康，夫と子どものどちらに比重があるか。C.乳児の世話やスキンシップについて。D.乳児への働らきかけ。E.母親の育児観や社会観について。――以上五つの柱で小項目をつくり，5段階SD法による質問をつくる。予備検査により項目の検討をし，40項目の設問とする（附，質問紙参照）。

2)保健所の乳児検診に訪れる母親に，その場で記入してもらう方法をとる。つまり，比較的短時間に，質問に対して感じたままチェックするよう状況を設定した。

(2)　対象

大都市，中都市，郡部の3群の資料を得るため，大都市は東京，中都市・郡部は表日本として高知県，裏日本として石川県を対象地域とした。なお，東京では団地（高島平保健所），山手（雪ケ谷保健所），下町（蒲田保健所）に分散して対象をもとめた。東京600，石川県600，高知県600（各中都市300，郡部300）計1,800部を配布し，回収数1,773で，回収率は99%である。実際得た対象数を地域別にみると第1表のようになる。

(3)　調査日時

1974年11月から1975年1月にわたり，各対象保健所の乳児検診日に調査を施行した。

第1表　調査対象

東京都				石川県			高知県			合計
高島平	雪ケ谷	蒲田	計	金沢	郡部	計	高知	郡部	計	
188	226	204	618	291	284	575	255	325	580	1773

Ⅲ　結　　果

1.　地域差の検討

(1)まず，東京都は団地・山手・下町別，石川県は金沢市・郡部別，高知県は高知市他市街地・郡部別に，それぞれの項目にわたり，頻数と%を求めて各地域内の差を検討した。つまり，東京都内の三群，石川県の二群，高知県の二群，および石川県と高知県について，それぞれの

第2表―1　年　令

	20才未満	20 ～ 24才	25 ～ 29才	30 ～ 39才	40才以上	計
東　京 大都市	6 (1.0)%	119 (19.3)	336 (54.6)	151 (24.6)	3 (0.5)	615 (100.0)
中都市	2 (0.4)	159 (29.3)	290 (53.4)	92 (16.9)	0 (0.0)	543 (100.0)
郡　部	5 (0.7)	196 (49.9)	302 (49.9)	99 (16.4)	3 (0.5)	605 (100.0)
計	13 (0.7)	474 (26.9)	928 (52.6)	342 (19.4)	6 (0.3)	1763 (100.0)

0.1＞P

ちがいや傾向をみるため，各項目ごとに x^2 検定をおこなったがあまりにも繁雑に亘るのでここでは省略する。

(2)大都市・中都市・郡部による差

東京都全体を大都市，金沢市と高松市他市街地を中都市，石川県と高知県の郡部をひとつにまとめて，郡部とし，大都市・中都市・郡部の三群に大別する。この三群について各項目ごとに実数と%を算出し x^2 検定により三群の傾向を検討した。以下大都市は東京と表示した。

1)　face sheet の分析

まず，対象年令をみると，25～29才台がもっとも多く，各群とも50%前後である（第2表―1）。

地域差は東京が30～39才に20%で他群より多く，中都市・郡部は20～24才に30%を占め（東京20%），郡部の方が年令が若いといえる（危険率.01%）。学歴をみると（第2表―2）全体として高校卒がもっとも多いが，東京・中都市・郡部の順に学歴が低く，危険率.01%で明らかな差を示している。乳児をもつ母親の就業状況は，つぎのようになり，郡部の母親は53%と就労率が高い。

第2表―2　最終学歴

	中学卒	高校卒	短大卒	大学卒	計
東　京	94 (15.5)%	378 (62.3)	87 (14.4)	47 (7.8)	606 (100.0)
中都市	119 (22.1)	345 (64.1)	60 (11.2)	14 (2.6)	538 (100.0)
郡　部	250 (41.3)	308 (50.9)	38 (6.3)	9 (1.5)	605 (100.0)
計	465 (26.5)	1031 (58.9)	185 (10.6)	70 (4.0)	1749 (100.0)

.50＞P＞.30

つぎに中都市29%，東京（大都市）はわづかに13%で87%が家庭婦人である。

	職業あり	職業なし
東　京	13.4%	86.6%
中都市	28.5%	71.5%
郡　部	53.0%	47.0%

職業をもつ母親について，勤務状況をみると，地域差はみられず，平均で日勤46%，自営業41%で大部分を占めている。

〈職業あり〉

日　勤	パート	自営業	内　職	計
257 (46.0)	29 (5.2)	229 (41.0)	44 (7.8)	559 (100.0)

.50＞P＞.30

また，職業を持たない母親だけについて，全く勤めの経験のないもの，結婚前は就職の経験あるもの，現在は勤めていないが，結婚後も勤めていたものについてみると，全く経験のないものは一割に満たず（9%），64%の母親は結婚前まで勤めており，結婚後も勤めていたものは27%である。都市・郡部の地域差はみられない。

〔地域差のないものは，紙面の都合上，東京・中都市・郡部別の実数%を割愛し，合計についてのみ表示することとする。〕

結婚年数は都会の方が短かいものが多い傾向を示して

〈職業なし〉

勤めたことがない	結婚前は勤めていた	結婚後も勤めていた	計
108 (9.0)	770 (64.0)	325 (27.0)	1203 (100.0)

.90＞P＞.80

いる。(第2表—3)，つぎの子ども数も都会が少ないことを明らかにしている（第2表—4)。これは，必らずしも乳児をもつ母親全体の傾向を示しているとはいえない。ここでいえることは，郡部の方が後年まで保健所を利用しているということである。

第2表—3　結婚年数

	2年未満	3～5年	6～10年	11年以上	計
東京	240 (39.2)%	266 (43.3)	93 (15.2)	14 (2.3)	612 (100.0)
中都市	191 (35.2)	254 (47.0)	80 (14.8)	16 (3.0)	541 (100.0)
郡部	209 (34.0)	259 (42.6)	129 (21.2)	11 (1.8)	608 (100.0)
計	640 (36.3)	778 (44.2)	302 (17.2)	41 (2.3)	1761 (100.0)

.05＞P＞.01

つぎに，夫との年令差は，大都市（東京）・中都市・郡部と，夫より年下のものが多くなり，逆に夫より年上のものが少い傾向を示している。しかし，統計的に有意の差となっていない。

〈夫との年令差〉

夫より年下	同　年	夫より年上	計
1321 (76.5)	220 (12.7)	186 (10.8)	1727 (100.0)

.20＞P＞.10

なお，夫との同居・別居についてはつぎのように危険率95%以上であり，地域差はみられない。

〈夫との同居〉

同居	仕事で別居	その他で別居	離婚	死別	計
1734 (97.9)	28 (1.6)	5 (0.3)	3 (0.2)	0 (0.0)	1770 (100.0)

.99＞P.＞95

第2表—4　子　供

	1人	2人	3人	4人	5人	その他(7人)	計
東京	405 (65.6)%	175 (28.4)	33 (0.5)	3 (0.5)	1 (0.2)	0 (0.0)	617 (100.0)
中都市	270 (49.5)	224 (41.6)	46 (8.4)	6 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	546 (100.0)
郡部	267 (43.7)	246 (40.4)	82 (13.5)	12 (2.0)	0 (0.0)	1 (0.2)	609 (100.0)
計	942 (53.1)	645 (36.4)	161 (9.1)	21 (1.2)	2 (0.1)	1 (0.1)	1772 (100.0)

.01＞P

第2表—5　家族数

	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人以上	計
東京	3 (0.5)%	305 (49.3)	204 (33.1)	69 (11.2)	22 (3.6)	11 (1.8)	3 (0.5)	617 (100.0)
中都市	1 (0.2)	173 (31.7)	182 (33.4)	88 (16.1)	93 (11.5)	33 (6.0)	6 (1.1)	546 (100.0)
郡部	0 (0.0)	101 (16.6)	148 (24.3)	144 (23.6)	117 (19.2)	66 (10.7)	34 (5.6)	609 (100.0)
計	4 (0.2)	579 (32.9)	534 (30.3)	301 (16.5)	202 (11.5)	109 (6.2)	43 (2.4)	1772 (100.0)

.01＞P

家族数は，第２表―５に示すように，東京では夫婦と乳児の３人家族が半分に近い。中都市は３人～４人家族が多く，郡部には４～５人家族が多い。家族以外の同居人は各群ともわずかであり，差もみられない。

〈その他の同居人〉

	住込の従業員	お手伝い	その他	な　し	計
計	19 (1.1)	5 (0.2)	6 (0.3)	1741 (98.4)	1770 (100.0)

P＞.99

つぎに，主に育児をする人をみると東京より中都市，中都市より郡部と，母以外の人が育児にあたっている。母の就労率や同居家族の表と照合して，うなづける結果といえよう。なお，表の「その他」は，保育所や保育ママなどである（第２表―６）。

第２表―６　主に育児をする人

	母	祖母	その他の家人	使用人	その他	計
東　京	600 (97.0)%	10 (1.6)	1 (0.2)	1 (0.2)	6 (1.0)	618 (100.0)
中都市	498 (79.2)	43 (7.9)	1 (0.2)	0 (0.0)	8 (1.5)	550 (100.0)
郡　部	473 (79.2)	99 (16.6)	7 (1.2)	2 (0.3)	16 (2.7)	597 (100.0)
計	1577 (31.5)	152 (8.6)	9 (0.5)	3 (0.2)	30 (1.7)	1765 (100.0)

.01＞P

第２表―７　周囲の環境

	農山漁村	工場街	商店街	団　地	住宅街	計
東　京	0 (0.0)%	25 (4.2)	46 (7.5)	249 (40.8)	290 (47.5)	610 (100.0)
中都市	115 (21.3)	6 (1.1)	61 (11.3)	80 (14.8)	279 (51.5)	541 (100.0)
郡　部	439 (72.0)	6 (1.0)	47 (7.7)	18 (3.0)	99 (16.3)	609 (100.0)
計	554 (31.5)	37 (2.1)	154 (8.7)	347 (19.7)	668 (38.0)	2060 (100.0)

.01＞P

居住地の環境は当然のことながら，郡部に農山漁村が多い。中都市の農山漁村が20%なのは，市町村合併による現象といえよう。

第２表―８　家屋状況

	一戸建	鉄筋アパート	木造アパート	借　間	計
東　京	129 (21.2)%	308 (50.7)	155 (25.5)	16 (2.6)	608 (100.0)
中都市	382 (71.0)	71 (13.2)	65 (12.1)	20 (3.7)	538 (100.0)
郡　部	572 (86.5)	18 (3.0)	42 (6.9)	22 (3.6)	609 (100.0)
計	1038 (59.2)	397 (22.6)	262 (14.9)	58 (3.3)	1755 (100.0)

.01＞P

家屋の状況は（第２表―８）一戸建は郡部87%，中都市71%，東京21%と大きな違いがみられる。逆に鉄筋アパート，木造アパートが都市に多く，都会と郡部の住宅事情の差を示している。

以上，第２表―１から８は，face sheet の分析である。

2）各項目の検討

各小項目は，設問に対して，両極の答えがあり，５段階に応じて記入者の気持や考えに合ったところにチェックされる（附・質問紙「記入例」参照）。

その結果を各項目ごとに集計し，東京，中都市・郡部別に有意の差があるかどうかを x^2 検定をおこなって検討した。

A．子ども時代，少女時代について

1．子ども時代の家庭の雰囲気

「大変暖かいと感じた」「やや暖かいと感じた」「どちらともいえない」「やや冷たいと感じた」「大変冷たいと感じた」を表示では，１～５の算用数字で表わした。以下の各項目とも同じである。x^2 検定では各群に有意差があるといえないように，「大変暖かい」「やや暖かい」に各群とも70%が含まれている。しかし，東京・中都市・郡部の順に「大変暖かい」が少なくなり，逆に「やや暖かいの方が郡部ほど多くなっている傾向をよみとることができる。

A―１　子供時代の家庭の雰囲気はどうでした

暖　か　い			冷　た　い		
1	2	3	4	5	計
781 (44.3)	543 (30.8)	343 (19.5)	73 (4.1)	23 (1.3)	1736 (100.0)

.30＞P＞.20

なお，紙面制限のため，東京・中都市・郡部別の有意差のない項目は，総数の各段階頻数・割合と x^2 検定結果の危険率だけ示すこととする。

2. 子ども時代の父親との関係

子ども時代に父親から愛情を多くうけているものは，東京に数多く郡部にいくに従い少なくなっている。東京と郡部では10%の差がみられる。危険率5%以下で差があるといえる。

A－2 子供時代，父親からの扱われ方

	かわいがられた			かわいがられない		
	1	2	3	4	5	計
東京	335 (55.5)%	143 (23.7)	98 (16.2)	14 (2.3)	14 (2.3)	604 (100.0)
中都市	283 (50.0)%	129 (24.2)	101 (18.9)	12 (2.2)	9 (1.7)	534 (100.0)
郡部	271 (45.3)%	182 (30.4)	114 (19.1)	15 (2.5)	16 (2.7)	598 (100.0)
計	889 (51.2)%	454 (26.2)	313 (18.0)	41 (2.4)	39 (2.2)	1736 (100.0)

.05＞P＞.01

3. 子ども時代の母親との関係

各群とも父親と比較して，母親の愛情をうけているものの方が多い。三群の傾向としては，父親のばあいと同様，都会の方が母親に愛されているものが多く危険率1%以下の明らかなちがいがみられる。三群の比率も父親のばあいと殆んど同じである。

A－3 子供時代，母親からの扱われ方

	かわいがられた			かわいがられない		
	1	2	3	4	5	計
東京	358 (59.3)%	143 (23.7)	82 (13.6)	13 (2.2)	7 (1.2)	603 (100.0)
中都市	314 (58.7)%	143 (23.7)	77 (14.4)	6 (1.1)	7 (1.3)	540 (100.0)
郡部	296 (48.8)%	180 (29.7)	107 (17.6)	13 (2.1)	11 (1.8)	607 (100.0)
計	968 (55.3)%	459 (26.2)	266 (15.3)	32 (1.9)	22 (1.3)	1750 (100.0)

.01＞P

4. 少女時代，赤ちゃんに対して……

各地域とも約60%のものが赤ちゃんをみて「大変かわいい」と感じていたと回答をしている。同時に10%にみたない数ながら「うるさい」と答えた母親が各地域にみられた。

A－4 少女時代，赤ちゃんを見るとどのように感じましたか

かわいい			うるさい		
1	2	3	4	5	計
1132 (64.2)%	320 (18.2)	203 (11.5)	55 (3.1)	53 (3.0)	1763 (100.0)

.20＞P＞.10

5. 少女時代，小さい子と遊ぶことについて

子どもとあそぶことが「大変楽しい」が多く，「大変わづらわしい」が少ないのは中都市であるが，X^2 検定の結果では有意の差といえるほどのものではない。

A－5 少女時代，小さい子と遊ぶことをどう思いましたか

楽しい			わずらわしい		
1	2	3	4	5	計
880 (50.1)%	368 (21.0)	347 (19.8)	100 (5.7)	60 (3.4)	1755 (100.0)

.20＞P.10

6. 少女時代，将来母になることについて

将来母親になることに「期待をもっていた」ものは中都市群に多く，東京と郡部では「やや期待していた」ものを含めると郡部の方が多い。「いやだった」「ややいやだった」ものについてみても，この傾向はみられる。すなわち，中都市がもっとも少なく3.5%，つぎが郡部で

A－6 少女時代，将来母になることについてどう思いましたか

	期待していた			いやだった		
	1	2	3	4	5	計
東京	205 (34.2)%	123 (20.5)	219 (36.4)	31 (5.2)	22 (3.7)	600 (100.0)
中都市	214 (39.6)%	108 (20.0)	199 (36.9)	7 (1.3)	12 (2.2)	608 (100.0)
郡部	211 (34.7)%	134 (22.0)	231 (38.0)	20 (3.3)	12 (2.0)	608 (100.0)
計	630 (36.0)%	365 (20.9)	649 (37.1)	58 (3.3)	46 (2.7)	1748 (100.0)

.01＞P

5.3%，東京では9.7%ともっとも多い。検定結果でも明らかな差と認めることができる。他の項目が，東京，中都市，郡部の順にある傾向を示し，中都市群が東京と郡部の中位にあるのに対し，ここで中都市群が他とちがう特徴を出しているといえる。中都市では母親の座が安定しており，郡部（農山村）では母の生活のきびしさが，少女達の母親への期待に影響を与えているといえよう。東京では職業選択を含めた成人女性へのイメージの広がりが母親への期待を低くしていると考えられる。

7.　少女時代，乳児を抱いた経験

少女期に乳児を抱いた経験についてみると，「よく抱いた」「抱いた方だと思う」は，郡部76%，中都市70%，東京69%の順になり，「抱かない方」「まったく抱いたことがない」は，逆に東京21%，中都市18%，農山村（郡部）14%となっている。つまり郡部ほど少女期に乳児を抱いたものが多いといえる（危険率5%以下）。

A－7　少女時代に赤ちゃんを抱いたことがありますか

	よくしたと思う	した方だと思う	どちらともいえない	しない方だと思う	全くしなかった	計
東　京	277 (45.5)%	144 (23.6)	62 (10.2)	86 (14.1)	40 (6.6)	609 (100.0)
中都市	252 (46.5)%	126 (23.2)	70 (12.8)	69 (12.7)	26 (4.8)	543 (100.0)
郡　部	285 (46.8)%	177 (29.1)	59 (9.7)	52 (8.5)	36 (5.9)	609 (100.0)
計	814 (46.2)%	447 (25.4)	191 (10.8)	207 (11.8)	102 (5.8)	1761 (100.0)

.05＞P＞.01

A－8　少女時代に赤ちゃんの世話をしたことがありますか

	よくしたと思う	した方だと思う	どちらともいえない	しない方だと思う	全くしなかった	計
東　京	224 (36.4)%	100 (16.3)	55 (8.9)	61 (9.9)	175 (28.5)	615 (100.0)
中都市	203 (37.3)%	78 (14.3)	59 (10.8)	62 (11.4)	143 (26.2)	545 (100.0)
郡　部	240 (39.4)%	131 (21.5)	45 (7.4)	56 (9.2)	137 (22.5)	609 (100.0)
計	667 (27.7)%	309 (17.5)	159 (9.0)	179 (10.1)	455 (25.7)	1769 (100.0)

.05＞P.01

8.　少女期の乳児の世話の経験の有無

前項の少女期に乳児を抱いた経験より，世話の経験は全般に10%弱少なくはなっているが，三群の傾向は全く類似しており，5%水準の危険率で郡部ほど経験しているものが多いといえる。

B．現在の生活，夫との生活など

1.　現在の家庭の雰囲気

「大変暖かい」と現在の家庭の雰囲気を評価しているものは，東京，中都市，郡部の順であり，「やや暖かい」と回答しているものは，中都市，郡部に30%，両方の回答をあわせれば，東京と中都市は90%，郡部80%で大部分のものが家庭を暖かいと感じている。この傾向は都会の方が強く，1%水準の危険率で差があるといえる。さきに face sheet の結果で明らかなように，核家族の多い都会の特徴があらわれている。

B－1　現在の家庭の雰囲気はどうですか

	暖かい			冷たい		
	1	2	3	4	5	計
東　京	466 (76.1)%	96 (15.7)	41 (6.7)	6 (1.0)	3 (0.5)	612 (100.0)
中都市	341 (62.9)%	163 (30.1)	31 (5.7)	3 (0.6)	4 (0.7)	524 (100.0)
郡　部	345 (56.6)%	190 (31.3)	63 (10.4)	9 (1.5)	1 (0.2)	608 (100.0)
計	1152 (65.4)%	449 (25.5)	135 (7.7)	18 (1.0)	8 (0.4)	1762 (100.0)

.01＞P

2.　夫に対する満足度

夫に対して満足か不満かの回答をみると，三群の差はなく，「大変満足」が60%，「やや満足」が27%前後である。

B－2　現在，自分の夫に対してどう感じますか

満足			不満足		
1	2	3	4	5	計
1052 (59.5)%	479 (27.1)	180 (10.2)	37 (2.1)	19 (1.1)	1767 (100.0)

.01＞P.05

3.　夫との結びつき

夫との結びつきをどう感じているのかは，前項の夫への満足度と類似した問いであり，回答は微妙な違いがでて，都会ほど夫との結びつきがつよく，その差がみられている。

B－3　夫との結びつきについてどう感じますか

	強い			張い		
	1	2	3	4	5	計
東京	353 (58.7)%	155 (25.7)	77 (12.8)	5 (0.8)	12 (2.0)	602 (100.0)
中都市	287 (54.3)%	152 (28.7)	76 (14.4)	8 (1.5)	6 (1.1)	529 (100.0)
郡部	276 (54.0)%	183 (30.5)	129 (21.5)	8 (1.3)	4 (0.7)	600 (100.0)
計	916 (52.9)%	490 (28.3)	282 (16.3)	21 (1.2)	22 (1.3)	1731 (100.0)

.01＞P

4.　夫との性生活

夫との性生活の満足度についてみると，この場合も三群間にとくに有意の差はみられず，おしなべて「満足」が44%前後「やや満足」が25%前後となっている。

B－4　現在の夫との性生活をどう感じていますか

満足			不満足		
1	2	3	4	5	計
756 (43.9)%	438 (25.5)	480 (27.9)	28 (1.6)	19 (1.1)	1721 (100.0)

.30＞P＞.20

5.　夫の協力

しかし，夫が家事や育児に対して協力的かどうかについては「思いやりがある」は，東京55%に対し，農山村では45%であり，10%の開きがある。中都市はその中間に位置し，1%水準の危険率でそのちがいが明らかなことを示している。

B－5　夫の家事や育児に対する態度をどう感じますか

	思いやりがある			思いやりがない		
	1	2	3	4	5	計
東京	333 (55.0)%	158 (26.1)	75 (12.4)	27 (4.5)	12 (2.0)	605 (100.0)
中都市	280 (51.9)%	151 (28.0)	79 (14.7)	19 (3.5)	10 (1.9)	539 (100.0)
郡部	271 (44.7)%	187 (30.9)	95 (15.7)	26 (4.3)	26 (4.3)	605 (100.0)
計	884 (50.5)%	496 (28.4)	249 (14.2)	72 (4.1)	48 (2.8)	1749 (100.0)

.01＞P

6.　現在の乳児を妊娠したとき

全体でみると60%のものが妊娠を大へん喜んでおり，「嬉しい」を含めると83%になる。都郡別でみると，都会ほどこの数は多く，妊娠を「困った」とうけとめたものは農村部の方に多い（危険率1%）。しかし，東京の対象は第1子が多いことを加味して考えなければならないだろう。

B－6　現在の赤ちゃんを妊娠した時どう感じましたか

	うれしい			困った		
	1	2	3	4	5	計
東京	389 (63.7)%	115 (18.9)	75 (12.3)	12 (2.0)	19 (3.1)	610 (100.0)
中都市	339 (62.5)%	111 (20.4)	66 (12.2)	17 (3.1)	10 (1.8)	543 (100.0)
郡部	375 (61.9)%	111 (18.3)	77 (12.7)	25 (4.1)	18 (3.0)	606 (100.0)
計	1103 (62.7)%	337 (19.1)	218 (12.4)	54 (3.1)	47 (2.7)	1759 (100.0)

.01＞P

7.　妊娠中の健康

現在の乳児が胎内にあったとき，母親が心身ともに健康であったかどうか――「快調」の答は，都会より郡部にいくほど僅かに多くなっているが，「やや快調」では逆になって，差をなくしている。

B－7　現在の赤ちゃんを妊娠している時の心や身体の調子はどうでしたか

快調			調子が悪い		
1	2	3	4	5	計
638 (36.4)%	417 (23.8)	267 (15.3)	269 (15.4)	160 (9.1)	1751 (100.0)

.50＞P＞.30

8.　月経の時の気分の変化

日頃と比べて月経の時，気分が変りやすいかどうかについてみると，全く地域的傾向はつかめない。つまり，個人差によるものが強いといえよう。「変りやすい」，「やや変りやすい」を合せると，三群とも32%前後で意外に多い数が認められ，変調を感じるものが3人に1人はいるということを示している。

9.　子どもが生れ夫の世話がおろそかになる

子どもの誕生により，夫の世話が不ゆきとどきになる

B－8　月経の時の気分（日頃と比べて）はどうですか

変らない			変りやすい		
1	2	3	4	5	計
583	306	310	385	168	1752
(33.3)%	(17.4)	(17.7)	(22.0)	(9.6)	(100.0)

.70＞P＞.50

ことについてどう感ずるかをたずねた。地域的なちがいはみられなかったが，三群の平均でみると，32%が「気がかり」と答え，40%近くが「やや気がかり」と回答している。すなわち，70%は子どものために夫の世話がいきとどかないことを意識しており，夫の世話より子どもの世話にかかっている事実をしめしている。

B－9　子供が生まれることによる夫の世話の不行きとどきをどう感じますか

気にかからない			気にかかる		
1	2	3	4	5	計
108	74	315	689	566	1752
(6.2)%	(4.2)	(18.0)	(39.3)	(32.3)	(100.0)

P＞.99

10. 夫と子どもとの心の比重

現在，心を占めているのは夫と子どもとでどちらが大きいかを質問した。結果をみると，どの群とも夫より子どもへの傾斜がつよく，65%前後が子どもの方に比重がかかっていることを示している。逆の場合，すなわち，子どもより夫の方に比重のあるものは，「やや夫の方」を含めても3.5%で4%にも満たない。都会，農村の差はみられない。

B－10　現在，心を占めているのは，夫より子供の方が……

大きい			小さい		
1	2	3	4	5	計
590	535	566	46	15	1752
(33.7)%	(30.5)	(32.3)	(2.6)	(0.9)	(100.0)

.50＞P＞.30

B－11　現在の夫の収入に対し，どう感じていますか

満足			不満足		
1	2	3	4	5	計
598	436	408	180	140	1762
(33.9)%	(24.8)	(23.2)	(10.2)	(7.9)	(100.0)

.30＞P＞.20

11. 夫の収入

夫の収入に対して「満足」と答えているものをみると東京と中都市は殆んど同じで，郡部でややおちるが，統計的有意差はみられない。全体でみると，「満足」「やや満足」は60%弱，「不満」「やや不満」は18%で，残りは「どちらともいえない」23%である。

C．乳児のせわに関して

1.　乳児に乳房をいじられること

乳児に乳房をいじられることを「楽しい」と感じるものが東京では40%，中都市・郡部は「どちらともいえない」に集中して両群約45%である。「気持が悪い」「やや気持が悪い」という回答では，郡部・中都市・東京の順になり，都会ほど「楽しい」方に偏っているといえよう（危険率.01%）。

C－1　赤ちゃんに乳房をいじられることをどう感じますか

	楽しい			気持ちが悪い		
	1	2	3	4	5	計
東京	233	154	179	7	5	587
	(40.3)%	(26.6)	(31.0)	(1.2)	(0.9)	(100.0)
中都市	139	138	235	12	6	530
	(26.2)%	(26.0)	(44.4)	(2.3)	(1.1)	(100.0)
郡部	151	152	271	18	7	599
	(25.2)%	(25.4)	(45.2)	(3.0)	(1.2)	(100.0)
計	523	444	685	37	18	1707
	(30.6)%	(26.0)	(40.1)	(2.2)	(1.1)	(100.0)

.01＞P

C－2　手づくりの離乳食を作ることについてどう感じますか

	楽しい			わずらわしい		
	1	2	3	4	5	計
東京	229	164	145	48	14	600
	(38.2)%	(27.3)	(24.2)	(8.0)	(2.3)	(100.0)
中都市	207	153	131	36	4	604
	(39.0)%	(28.7)	(24.7)	(6.8)	(0.8)	(100.0)
郡部	207	178	146	49	24	604
	(34.2)%	(29.5)	(24.2)	(8.1)	(4.0)	(100.0)
計	643	495	422	133	42	1735
	(37.1)%	(28.5)	(24.3)	(7.7)	(2.4)	(100.0)

.05＞P＞.01

2. 離乳食をつくること

手づくりの離乳食を作ることについて，「楽しい」，「わづらわしい」の選択肢で回答を求めた。これの結果をみると，前項の乳房をいじられることの結果と同じ傾向がみられ，都会の方が楽しんでいるもの多く，5％水準の危険率で差があるといえる。

3. 乳児が乳を吐いて衣服をよごしたとき

乳児が乳を吐いて衣服をよごしたとき，「気にならない」ものは東京，中都市，郡部の順になり，「きたない」「ややきたない」と感ずるものは，反対に郡部，中都市，東京と次第に少なくなっている。しかし，統計的にみて有意の差とはいえない。

C－3　赤ちゃんが乳を吐いて衣服を汚した時どのように感じますか

気にならない			きたない		
1	2	3	4	5	計
832	339	264	189	143	1767
(47.1)%	(19.2)	(14.9)	(10.7)	(8.1)	(100.0)

.30＞P＞.20

4. 乳児の食べ残しを食べること

乳児の食べ残しを食べることについて，「気にならない」ものが多いのか，「きたない」と思うものが多いのか――全体的にみて60％のものは「まったく気にならない」とこたえ，「大して気にならない」が17％である。したがって，80％近くのものは，赤ちゃんの食べ残しを食べることを苦にしていないといえる。赤ちゃんが乳を吐いたときは（前項目C－3），気にならない方が都会に多く，明らかな差がみられたのに比べて，食べ残しを気にしないことでは三群に差がでていない。むしろ，僅かではあるが郡部の方が逆に「気にならない」ものが多くなっている。

C－4　赤ちゃんが食べ残したものを食べることについてどう感じますか

気にならない			きたない		
1	2	3	4	5	計
1038	295	288	90	21	1732
(59.5)%	(17.1)	(16.6)	(5.2)	(1.2)	(100.0)

.95＞P＞.90

5. 乳児の夜泣き

乳児に泣かれて夜中に何度も起こされることをどう感ずるかについて質問した。乳児が「かわいそう」と感ずるのは，郡部より，中都市，中都市より大都市と多くなり，夜泣きに対して「腹が立つ」方は逆に郡部ほど多くなり，危険率.01％水準で有意の差がみられる。

C－5　赤ちゃんに泣かれて夜中に何度も起こされることをどう感じますか

	赤ちゃんがかわいそう			腹がたつ		
	1	2	3	4	5	計
東京	159	136	208	87	12	602
	(26.4)%	(22.6)	(34.5)	(14.5)	(2.0)	(100.0)
中都市	139	124	163	99	12	537
	(25.9)%	(23.1)	(30.4)	(18.4)	(2.2)	(100.0)
郡部	128	139	200	104	33	604
	(21.2)%	(23.0)	(33.1)	(17.2)	(5.5)	(100.0)
計	426	399	571	290	57	1743
	(24.4)%	(22.9)	(32.8)	(16.6)	(3.3)	(100.0)

.01＞P

6. 夜中の授乳やおむつ替えについて

夜中に授乳やおむつを替えることが「気にならない」か，「わづらわしい」か――この結果についてみると，三群に顕著な差はみられず，「気にならない」と「まったく気にならない」で60％以上ある。「腹が立つ」と「やや腹が立つ」では，各群17％前後で，二割弱の母親が夜中の授乳やおむつ替えを，わづらわしいと思っている。

C－6　夜中の授乳やおむつ替えをどう感じますか

気にならない			わづらわしい		
1	2	3	4	5	計
748	379	328	256	38	1749
(42.8)%	(21.7)	(18.7)	(14.6)	(2.2)	(100.0)

.70＞P＞.50

7. 汚れたおむつをしていることについて

乳児が汚れたおむつを身につけているのをみて，どう感ずるかをしらべた。汚れたままのおむつを身につけているのをみて，赤ちゃんが「大変かわいそう」と思う母親が大部分で85％，「かわいそう」を含めると97％にな

C－7　赤ちゃんが汚れたおむつをしていることをどう感じますか

赤ちゃんがかわいそう			気にならない		
1	2	3	4	5	計
1489	218	39	6	6	1758
(84.7)%	(12.4)	(2.3)	(0.3)	(0.3)	(100.0)

.70＞P＞.50

る。「気にならない」母親は，「さして気にならない」をあわせても僅か6％に過ぎない。都鄙別の傾向はまったくみられない。

8. 汚れたおむつの扱かい

汚れたおむつを扱かうときに，「気にならない」か，「きたないと思う」かの問いについては，「大変きたない」と答えたものと「ややきたないと思う」ものを含めても5％に欠け，殆んどの母親（90％）が「気にならない」と答えている。郡部，中都市，東京の差はみられない。

C－8　汚れたおむつを扱う時どう感じますか

気にならない		きたない			
1	2	3	4	5	計
1141	161	117	52	25	1766
(79.9)％	(9.1)	(6.6)	(3.0)	(1.4)	(100.0)

P＞.99

9. 入浴をさせることについて

乳児を入浴させるとき，楽しいと感ずるか，わずらわしいと感じるかの問いでは，比較的，都市の方が「楽しい」と答えているものが多い。しかし，統計的有意差までのちがいはない。全体的にみて90％の母親が楽しんで入浴させており，わずらわしいと感じているものは，ごく僅かである。

C－9　赤ちゃんを入浴させるときどう感じますか

楽しい		わずらわしい			
1	2	3	4	5	計
1294	297	147	18	2	1758
(73.6)％	(16.9)	(8.4)	(1.0)	(0.1)	(100.0)

.70＞P＞.50

C－10　赤ちゃんの泣き方がひどい場合，どのように感じますか

	心配			うるさい		
	1	2	3	4	5	計
東京	471	81	40	15	8	615
	(76.6)％	(13.2)	(6.5)	(2.4)	(1.3)	(100.0)
中都市	405	86	30	20	5	546
	(74.1)％	(15.8)	(5.5)	(3.7)	(0.9)	(100.0)
郡部	495	72	26	13	2	608
	(81.5)％	(11.8)	(4.3)	(2.1)	(0.3)	(100.0)
計	1371	239	96	48	15	1769
	(77.5)％	(13.5)	(5.4)	(2.7)	(0.9)	(100.0)

.05＞P＞.01

10. 乳児がひどく泣くとき

乳児の泣き方がひどいとき，母親は「心配」だと感ずる方が多いのか，それとも「うるさい」と感ずることが多いのだろうか。この設問に対しては，多くの母親が「心配」と思い，「うるさく」感じているものは，ごく僅か（3.5％）である。三群のうち，大都市と中都市はほぼ同じであるが，郡部が他の二群より「大変心配」が多く「大変うるさい」が少なくなっている（危険率5％）。郡部では医療施設が整備されていないので，乳児のひどい泣き方は母親の不安をかきたてることになるのかも知れない。

D．乳児への働きかけ

1. 授乳やおむつ替えのとき

乳児の授乳やおむつ替えのとき，赤ちゃんに無意識に話しかけてしまうかどうかについて質ねた。大部分の母親（65％）は，乳児の世話をしながら，赤ちゃんに話しかけている。「どちらともいえない」を含めても，「話しかけない」母親は大変少なく一割以下である。東京群に働らきかけを「よくする」ものが多いが，他の群は「する方である」に数が多い。だが有意の差はみとめられない。

D－1　赤ちゃんのミルクやおむつ替えの時，赤ちゃんに，つい話しかけてしまいますか

よくする	する方	どちらともいえない	しない方	全くしない	計
1143	513	82	26	3	1767
(64.7)％	(29.0)	(4.6)	(1.5)	(0.2)	(100.0)

.10＞P＞.05

2. 乳児へのスキンシップ

乳児を撫でたり，さわったり，ほほずりしたり――いわゆるスキンシップをとくに意識せずによくするかどうかについて調べた。前項の「話しかけ」の場合と似た傾向を示し，「よくする」のは東京にやや多く，中都市・郡部はほぼ同じである。また，中都市・郡部は「よくする方」がいくらか多くなっているのも同様な傾向といえ

D－2　赤ちゃんの身体を思わず撫でたり，さわったり，ほほずりしたりしますか

よくする	する方	どちらともいえない	しない方	全くしない	計
1361	311	82	14	2	1770
(76.9)％	(17.6)	(4.6)	(0.8)	(0.1)	(100.0)

.50＞P＞.30

よう。しかし，これらの差は有意の差とは，なっていない。

3. 乳児がむずかっていなくても抱く

乳児が泣いたり，ぐずったりしているから，抱いたりあやしたりするのではなく，乳児の要求を待たずに母親の方から乳児に手をさしのべたり，声をかけたりしているかどうかをみる。60%の母親は「よくすると思う」と答えている。「する方だと思う」を含めれば，80%を超す。一割弱の母親たちに，乳児がむずかったり，泣いたりしないと放っておく傾向がみられる。地域環境的な有意の差はみられない。

D－3 赤ちゃんがむずかっていなくても抱いたりあやしたり声をかけたりしますか

よくする	する方	どちらともいえない	しない方	全くしない	計
1076	399	150	88	57	1770
(60.8)%	(22.5)	(8.5)	(5.0)	(3.2)	(100.0)

.20＞P＞.10

4. 乳児とあそんでやること

母親たちは，「イナイ・イナイ・バア！」などの乳児との遊びを，どの程度しているのだろうか。ここでは前項目《D－3，乳児がむずかっていなくても抱く》より，より積極的な子どもへの働らきかけについてみようとするものである。前項目の結果と比べて，「よくすると思う」が郡部で5%落ちているが，東京・中都市は1%づつ減少している。郡部では，子どもを抱くことでは東京と同率であるが，《D－4乳児とあそんでやる》では低くなってくる。否定的回答「しない方」「まったくしない」の比率をみても，前項《D－3抱いてやる》では，三群ともそれほど差がないが，《D－4遊んでやる》項目では，農村ほど少なくなっている。以上はD－3項目との比較であるが，D－4だけをみると，「よく遊びをする」が東京にやや多い。母親たちの大部分は乳児と遊んでやっており，「遊ぶほうだと思う」を含めれば87%になる。「遊びをしてやらない」母親は，僅かではあるが東京・中都市・郡部の順に増えている。しかし，僅少差であり，有意の差とはいえない。

D－4「イナイ，イナイ，バア」など赤ちゃんとの遊びをよくしますか

よくする	する方	どちらともいえない	しない方	全くしない	計
1021	505	168	30	29	1753
(58.2)%	(28.8)	(9.6)	(1.7)	(1.7)	(100.0)

.99＞P＞.95

5. 子守唄をうたってやる

子どもを寝かせるとき，ひとりでに子守唄が口をついて出ますか――という問で，現代の母親が子どもに子守唄をうたってやっているかをしらべた。「よくうたう」をみると，東京，中都市・郡部の順になっているが，大差はなく40%前後である。全体的にみて子守唄をうたうことのないものが15%になっている。「どちらともいえない」を含めて35%弱の母親はあまり唄っていないといえる。

D－5 赤ちゃんを寝かせる時ひとりでに子守唄が口をついて出ますか

よくする	する方	どちらともいえない	しない方	全くしない	計
731	438	326	126	146	1767
(41.4)%	(24.8)	(18.4)	(7.1)	(8.3)	(100.0)

.20＞P＞.10

E．育児観・社会観について

1. 育児と家事とどちらが好きか

育児をすることと他の家事と比べて，どちらを楽しいと思うかを問う。「どちらともいえない」が一番多く，43%の母親が回答している。しかし，家事より育児の方が「大変楽しい」25%，「楽しい」29%であり，家事より育児を楽しんでいる母親が圧倒的である。家事より育児の方がわづらわしいと答えているものは僅か3%である。そして都鄙別の傾向はとくにみられない。

E－1 家事をするより育児の方が……

楽しい			わずらわしい		
1	2	3	4	5	計
445	503	765	40	12	1765
(25.2)%	(28.5)	(43.3)	(2.3)	(0.7)	(100.0)

.50＞P＞.30

2. 社会に出て働らくことと育児

つぎに，社会に出て働らくことと育児とではどちらが楽しいかをきいた。全体的にみて，40%のものが「どちらともいえない」といい，社会に出て働らくことと比べ育児は「つまらない」と感じているものは8.5%である。51%の母親は育児の方が楽しいといっている。都鄙別にみると，社会に出て働らくより育児の方が「楽しい」ものは都市ほど多く，育児の方が「つまらない」というものは東京（5.7%）より郡部（10%）に多くなっている。危険率1%以下でその差があるといえる。ここに都会のマイホーム的傾向がうかがえよう。

3. 乳児をもつ母親と職業

乳児をもつ母親が職業をもつことについてどう考える

E－2　社会に出て働くより育児の方が……

	楽し い			つまらない		
	1	2	3	4	5	計
東京	201 (32.7)%	130 (21.1)	237 (38.5)	27 (4.4)	14 (2.3)	609 (100.0)
中都市	151 (28.1)%	119 (22.1)	220 (40.9)	36 (6.7)	12 (2.2)	538 (100.0)
郡部	141 (22.9)%	158 (25.7)	255 (41.4)	36 (5.9)	25 (4.1)	615 (100.0)
計	493 (28.0)%	407 (23.1)	712 (40.4)	99 (5.6)	51 (2.9)	1762 (100.0)

.01＞P

E－3　赤ちゃんのいる母親が職業を持つことは……

	望ましくない			望ま しい		
	1	2	3	4	5	計
東京	205 (34.8)%	75 (12.7)	214 (36.4)	37 (6.3)	58 (9.8)	589 (100.0)
中都市	178 (33.5)%	70 (13.2)	200 (37.6)	46 (8.6)	37 (7.0)	531 (100.0)
郡部	220 (36.8)%	79 (13.2)	229 (38.3)	45 (7.5)	25 (4.2)	598 (100.0)
計	603 (35.1)%	224 (13.0)	643 (37.4)	128 (7.5)	120 (7.0)	1718 (100.0)

.05＞P＞.01

かを，望ましいか，望ましくないかという形で質問した。「望ましくない」に偏っているもの48%，「どちらともいえない」37%，「望ましい」が15%である。乳児をもつ母親が，職業をもつことに否定的なのは，郡部に多く，明らかな差がでている。前項目《E－2．社会に出て働らくより育児の方が楽しい》では，都会の母親の方が有意差をもって多かったのとは逆の結果がでている。すなわち，都会の母親は，社会に出て働らくより育児の方が楽しいといいながら，乳児がいても働らくことは望ましいと答えるものが農村より多いのである。考え方としては職業を肯定し，心情的には育児に傾斜しているものが東京や中都市に多いといえよう。

4.　母親が育児をすること

母親が育児をすることは当然と思うか，ばかばかしいと思うかという設問である。

「ばかばかしい」と思う傾向のものは0.6%，「どちらともいえない」というものも僅かに5%である。圧倒的多数の母親が，母親が育児をするのは当然であるといっており，地域的差はまったくみられない。

E－4　母親が育児をすることは……

当然である			ばかばかしい		
1	2	3	4	5	計
1458 (84.9)%	164 (9.6)	85 (4.9)	5 (0.3)	6 (0.3)	1718 (100.0)

.80＞P＞.70

5.　乳児を預けて出かけること

職業や仕事ではなく，母親自身が楽しむために乳児を他人に預けて出かけることをどう思うかをたずねる。こうしたことは「まったくいけない」「いけない」という回答のものをみると，東京では59%，中都市63%，郡部67%と，農村ほど否定的意見のものが多い。「当然である」と「ある程度よい」の肯定的な回答をしているものは，東京13%，中都市10%，郡部9%である。したがって，都会の母親には自分の楽しみのために乳児を他に預けて出かけることを肯定するものが多いといえる（危険率1%以下）。

E－5　あなた自身の楽しみの為に，誰かに赤ちゃんを預けて出かけることをどう思いますか

	いけない			当然である		
	1	2	3	4	5	計
東京	252 (41.3)%	106 (17.4)	168 (27.5)	58 (9.5)	26 (4.3)	610 (100.0)
中都市	215 (39.7)%	124 (22.9)	155 (28.7)	40 (7.4)	7 (1.3)	641 (100.0)
郡部	279 (46.0)%	129 (21.2)	145 (23.8)	28 (4.6)	27 (4.4)	608 (100.0)
計	746 (42.4)%	359 (20.4)	468 (26.6)	126 (7.2)	60 (3.4)	1759 (100.0)

.01＞P

6.　育児のため，したいことが制限される

育児によって，母親のやりたいことは何らかの制限をうけることになろう。こうしたことを「当然である」「やむをえない」と考える母親は，約半数を占めている。したいことが制限されることを「残念である」と思うものが30%，残りの20%は「どちらともいえない」と答えている。「当然である」と思う母親は，東京と中都市はほぼ同じであるが，郡部はやや多くなっている。しかし，

E－6　育児の為に母親のやりたい事が制限されることについてどう思いますか

当然である			残念である		
1	2	3	4	5	計
540	317	375	309	218	1759
(30.7)%	(18.0)	(21.3)	(17.6)	(12.4)	(100.0)

.70＞P＞.50

有意の差といえるほどのちがいはみられない。

7.　育児からの解放

育児から解放されたいと思うことがあるか，解放されたいと思うならどの程度なのか――これを知るため，育児から解放されたいと思うことは「まったくない」から「いつも」解放されたいと思っているまで，5段階にわけて母親にたずねた。「いつも」と「しばしば」の答えをあわせると9.3%である。つまり，育児からのがれたいと多くのぞんでいるものは一割弱である。「ときどき」解放されたいと思うことのあるもの32%，「たまに」解放されたいと思うもの51%である。解放されたいと思ったことの「まったくないもの」は8%となっている。都鄙別の傾向をみると，郡部より中都市，中都市より大都市の方が，解放をのぞむことが多いといえる。中都市・大都市の差は僅少で，農村は「ときどき」思うより「たまに」思うに偏っている。《E－2社会に出て働らくより育児の方が楽しい》では，農村の方が「つまらない」という答えが多い。つまり，農村では，都会ほど育児を楽しんでいないのに，解放をのぞむことは少なく，農村の方が生活にゆとりがなく考え方は保守的であることがうかがえる。

E－7　育児から解放されたいと思うことがありますか

	まったくない	たまに	ときどき	しばしば	いつも	計
東京	43	299	216	52	5	615
	(7.0)%	(48.6)	(35.1)	(8.5)	(0.8)	(100.0)
中都市	42	263	184	51	6	546
	(7.7)%	(48.2)	(33.7)	(9.3)	(1.1)	(100.0)
郡部	57	332	168	42	9	608
	(9.4)%	(54.6)	(27.6)	(6.9)	(1.5)	(100.0)
計	142	894	568	145	20	1769
	(8.0)%	(50.6)	(32.1)	(8.2)	(1.1)	(100.0)

.05＞P＞.01

8.　乳児の存在

育児が大変なので子どもがいない方がよいと思うことがあるかを問う。「まったくない」回答が多く50%，「たまに」そう思うが40%である。「いつも」子どもがいない方がよかったと思っているもの0.4%，「しばしば」そう思うもの1.5%で，乳児の存在をうとんじている母親は2%である。数こそ少ないがこの2%の母親は危険な母親といえよう。都鄙別にみて特別意味のある差はみとめられない。

E－8　育児が大変で赤ちゃんが居ない方がよかったと思うことがありますか

まったくない	たまに	ときどき	しばしば	いつも	計
886	702	147	27	7	1769
(50.1)%	(39.7)	(8.3)	(1.5)	(0.4)	(100.0)

.95＞P＞.90

2.　内部相関による分析

母性意識の構造を分析して検討するため，項目間の相関係数を算出することとする。結果(2)母性意識の実態にあらわれた，項目ごとの5段階回答の分布，および都鄙別の傾向から，類似小項目を統合して，40小項目を12群とする。この12群について，相互の関連をみることとした。12群の内容はつぎのようになっている。

Aa. 子ども時代の家庭

1. 子ども時代の家庭の雰囲気について，

2. 子ども時代父親から愛されたか，

3. 子ども時代，母親から愛されたか，――以上3項目。

Ab. 少女期の乳幼児への関心

4. 少女時代に赤ちゃんをみて，かわいいと感じたか，うるさいと感じたか。

5. 少女時代に，子どもと遊ぶことを楽しいと感じたか，それともうるさいと感じたか――以上2項目。

Ac. 少女期の将来母になることへの期待

6. 少女時代，将来母親になることについて期待していたか，それともいやだと思っていたか――1項目。

Ad. 少女時代の乳児への接触

7. 少女時代，赤ちゃんを抱いた経験につき，よく抱いたか，それとも全く経験がないかの問。

8. 少女時代に赤ちゃんの世話をしたことがあるか，どうかの問――以上2項目。

Ba. 夫との関係

1. 現在の家庭の雰囲気。家庭の雰囲気は必らずしも夫との関係ばかりで成立たないが，独立の項とするほどの特徴はみられず，家庭の雰囲気は夫との関係が重さを占めると思うし，なお，今回の調査では夫と子どもだけの家庭が多いので，Baに含めることとした。

2. 現在，自分の夫に対して満足と思うか，不満足に思うか。

3. 夫との結びつきは強いと思うか，あるいは弱いと思

うか。

4. 現在，夫との性生活は満足か不満足か。

5. 夫が家事や育児に対して協力的であるか，非協力的か。

6. 現在の夫の収入に対して満足か不満足か。——以上の6項目を一括した。

Bb. 妊娠のうけとめ方

現在の乳児である子を妊娠したとき，嬉しいと思ったか，あるいは困ったと思ったかの小問B6を独立の項とした。

Bc. 母体の健康

7. 現在の乳児を妊娠中，心身の調子はどうか，順調であったか，調子が悪かったか——。

8. 月経の時，日頃と比較して気分が変りやすいか，それとも日頃と別段変らないか——。以上2項目をまとめて，母親としての健康体に関するものとした。

Bd. 夫と子どもの比重

9. 子どもが生れることによって，夫の世話がゆきとどかなくなったことについてどう感じますか。気にかかるか気にかからないか——。

10. 現在あなたの心を占めているのは，夫より子どもの方が大きいか，それとも小さいか——。以上2項目によって，母親の心が自分の夫と子どもとでどちらに傾斜しているかをみる。

C. 乳児の養育の実際

1. 赤ちゃんに乳房をいじられることを楽しいと感ずるか気持が悪いと感ずるか。

2. 手づくりの離乳食を作ることを楽しいと感ずるか，わずらわしいと感ずるか。

3. 赤ちゃんがお乳を吐いて衣服を汚したとき，気にならないか，きたないと思うか。

4. 赤ちゃんが食べ残したものを食べることについて，気にならないか，それとも汚ないと思うか——。

5. 赤ちゃんに泣かれて夜中に何度も起こされると，赤ちゃんがかわいそうと思うか，それとも腹がたつか—。

6. 夜中の授乳やおむつ替えが気にならないか，わずらわしいか。

7. 赤ちゃんが汚れたおむつをしていると，赤ちゃんをかわいそうと思うか，気にならないか——。

8. 汚れたおむつを扱かうとき，気にならないか，汚ないと思うか。

9. 赤ちゃんを入浴させるとき，楽しいと思うか，わずらわしいと思うか。

10. 赤ちゃんの泣き声がひどいばあい，心配になるか，それともうるさいと思うか。

以上，Cの10項目は乳児の世話に関するものとして一括した。

D. 乳児への働らきかけ

1. 赤ちゃんの授乳やおむつ替えのとき，赤ちゃんに，つい話しかけてしまうか。

2. 赤ちゃんの身体を思わず撫でたり，さわったり，ほほずりしたりするか。

3. 赤ちゃんがむずかっていなくても抱いたり，あやしたり，声をかけたりするかどうか。

4. 「イナイ，イナイ，バア」など，赤ちゃんとの遊びをよくするか，どうか。

5. 赤ちゃんを寝かせる時，子守唄をうたってやるか，どうか。

以上5項目は，赤ちゃんへの働らきかけとしてまとめた。

Ea. 育児と家事の比較

1. 家事をするより育児の方が楽しいか，それとも家事の方が楽しいか——を，他のEの小項目とは異質なので独立させた。

Eb. 育児観・社会観

2. 社会に出て働らくより育児の方が楽しいか，それともわずらわしいか。

3. 赤ちゃんのいる母親が職業をもつことは望ましいことか，望ましくないことか。

4. 母親が育児をすることは，当然だと思うか，それともばかばかしいことと思うか。

5. 母親自身の楽しみのために，誰かに赤ちゃんを預けて出かけることは，当然であると思うか，いけないと思うか。

6. 育児のために，母親のやりたいことが制限されることについて，当然であると思うか，残念であると思うか。

7. 育児から解放されたいと思うことがまったくないか，いつも解放されたいと思うか。

8. 育児が大変で赤ちゃんがいない方がよいといつも思うか，それとも全くそんなことはないか——。

以上7項目を，育児に対する考え方，態度として一括した。

以上Aa.からEb.までの12に分類した。相関係数の算出手続きとして，まず，無作為抽出に200名をとりだした。この200名について，各小項目に5段階のいずれかにチェックされているものを，段階にしたがい，1点から5点に点数化する。さらに，この点数をAa.の合計点，Ab.の合計点……Eb.の合計点，と各グループごとに算出する。この12グループの点数から相関を求める。

第3表—1　相　関

上段＝r
下段＝P.E.r

	Aa	Ab	Ac	Ad	Ba	Bb	Bc	Bd	C	D	Ea	Eb
Aa 子ども時代の家庭の暖かさ												
Ab 少女期に乳幼児とあそぶ	0.2027 0.0457											
Ac 少女期に母になることを期待	0.2471 0.0448	0.4615 0.0375										
Ad 少女期に乳児と接触，世話をする	0.0025 0.0477	0.4215 0.0392	0.4241 0.0391									
Ba 夫との調和	0.2969 0.0435	0.0573 0.0475	0.1922 0.0459	0.0042 0.0477								
Bb 妊娠をよろこぶ	0.1125 0.0471	−0.2402 0.0449	0.1992 0.0458	0.1000 0.0472	0.2279 0.0441							
Bc 母体の健康	−0.0092 0.0477	0.0215 0.0477	0.1411 0.0467	0.0564 0.0475	0.2438 0.0449	0.0861 0.0473						
Bd 夫より子ども	−0.1209 0.0470	−0.0705 0.0475	−0.1187 0.0470	−0.0255 0.0477	−0.1711 0.0463	0.0537 0.0476	0.0564 0.0475					
C 乳児の養育と世話	0.1936 0.0459	0.1418 0.0467	0.1876 0.0460	0.1881 0.0460	0.3603 0.0415	0.2807 0.0439	0.2234 0.0453	0.0182 0.0477				
D 乳児への働らきかけ	0.0999 0.0472	0.5915 0.0310	0.1514 0.0466	0.2017 0.0458	0.1064 0.0472	0.0260 0.0477	−0.0657 0.0475	−0.0387 0.0476	0.3131 0.0430			
Ea 家事より育児	0.0236 0.0447	0.0738 0.0474	0.1086 0.1471	0.0400 0.0476	0.2031 0.0457	0.0749 0.0474	0.0832 0.0474	0.1299 0.0469	0.2331 0.0451	0.2605 0.0445		
Eb 育児埋没	−0.0423 0.0476	−0.0375 0.0476	0.1497 0.0466	0.0650 0.0475	0.4748 0.0369	0.2139 0.0455	0.0609 0.0475	0.0522 0.0476	0.2691 0.0442	0.1088 0.0471	0.2782 0.0440	

第3表—2　相　関

	Aa	Ab	Ac	Ad	Ba	Bb	Bc	Bd	C	D	Ea	Eb
Aa 子ども時代の家庭												
Ab 少女期に乳幼児とあそぶ												
Ac 母になる期待		◎										
Ad 少女期の子どもの世話		◎	◎									
Ba 夫との調和	○											
Bb 妊娠をよろこぶ					○							
Bc 母体の健康												
Bd 夫より子ども												
C 乳児の養育					◎	○						
D 乳児への働らきかけ		◎							○			
Ea 家事より育児										○		
Eb 育児埋没					◎			○			○	

（相関係数r）　◎＝.6　◎＝.4～.5　○＝.3

その結果が第3表—1である。上段は相関係数，下段は信頼度係数である。なお，相関の概略を一覧できるよう，相関の高いものを印したのが第3表—2である。

(1)相関のもっとも高いものは，r＝.6で，AbとDである。すなわち，少女期に赤ちゃんをみてかわいいと思い，子どもと遊ぶことを楽しいと思っていた母親は，母親になって，乳児に話しかけたり，遊んでやったり，子守唄をうたってやり，スキンシップも多いといえる。ここで明らかにされたように，母親自身が少女期に赤ちゃんや子どもと遊んだ経験をもつものは，自分が母親となって，乳児への愛情ある働らきかけをしているのである。

2)母親自身が少女時代に乳幼児と遊んでいるもの(Ab)は，Ad の少女期に乳児を抱いたり世話をしているものとも相関が高い。これは当然の結果ともいえるが，Ab と Ad は「D働らきかけ」との相関では Ad の方が .20 でやや低くなっており，また他のグループとの相関でもことなり，二つが独立していることを示す。つまり，Ad の乳児の世話をしたグループの中には，子ども時代，仕事として無理に乳児の世話をさせられた経験をもつものが含まれると考えられる。

3)少女期に将来自分が母親になることを期待していたもの（Ac）は，少女期に乳児や幼児と楽しく遊んだもの（Ab）と乳児の世話をした経験のあるもの（Ad）と.42～.46 の相関で相関が高くなっている。つまり，少女期に乳幼児に接触をもつことが，母性への期待をいだかせるということができる。

4)Ba 夫との調和とEb 育児観・社会観の相関は r =.5 に近い。夫との関係がよく夫に満足度が高いものは，社会より育児，母親自身の生活より育児という母親が多いといえる。さらに夫との調和の高いものは，C乳児の世話とも相関がある（r =.36)。また Bb 妊娠を喜んでうけとめているといえる（r =.27)。そして，Bc 母体の健康とも他のグループと比較してという条件つきで相関をみる。これでみると，母体として健康体で，夫と調和度高く，育児が第一と育児に専念し，乳児の世話に一生けんめいの母親――こうした母親のイメージがうかんでくる。しかし，ここで問題になるのは，D.子どもへの働らきかけとだけは相関がないことである。(もっとも，Bd. 夫より子どもへの傾斜は相関がみられない。しかし，これはBa夫との調和度を軸に考えれば当然である)。ここでは，多くの母親たちが社会や自分自身よりも乳児が大切であると，離乳食やおむつのせわなどに熱中しながら，乳児とのスキンシップやあそびをおろそかにさしていることを認めざるを得ない。

5)C.乳児の養育を軸に相関をみてみる。このグループは乳児の世話を楽しんですることの他，乳児に乳房をいじられる，乳を吐かれる，おむつを汚されることに対する感性的な項目も含まれる。これら項目に関する C は，Ba 夫との調和，Bb 妊娠の嬉こび，D.乳児への働らきかけ，Eb 育児埋没各グループと相関がみられる。そして，母親自身の子ども時代の家庭の暖かさ（Aa)，少女期に赤ちゃんや子どもと遊んだり，世話をしたりした経験（Ab，Ad.)，また，少女期に将来母になることへの期待（Ac）とは関係がみられない。D の子どもへの働らきかけをよくするグループが，少女期に年少の子とあそんだ経験をもつものと高い関係があったことを考えあわせると，CとDの質的なちがいが明らかである。つまりC乳児の世話をよくする母親と，D乳児とよくあそんでやる母親は，それぞれ別の背景をもっているといえよう。

6)育児観・社会観と他のグループとの相関をみると，育児第一主義のものは，Ba 夫との調和が高く，C 乳児の世話をよくやき，Ea 家事より育児が好きな母親になっている。しかし，D 乳児への働らきかけとは相関がみられない。このことを逆に社会へ出て働らく意義をみとめ，母親自身の主体性の確立をのぞむ母親たち側からみると，これらの母親たちが，乳児とあそんでやったり，スキンシップは十分にしていることを意味している。

7)Bd. 夫と子どもの比重――は，他の11のどのグループとも相関がない。むしろ，逆関係に出ているものが多い。夫より子どもに極端に傾斜している母親は，夫との調和度がひくいのはうなづける。この母親たちは，自分が子ども時代，愛情にめぐまれず，少女期に年少の子とあそんだり，世話した経験をもっておらず，いま現在，わが子に話しかけたり，あそんでやることをしていないといえる。ここには，子どもだけが頼りというはりつめた母親がうきぼりにされる。

3.　上位群・下位群による比較

内部相関では，各グループが，独立した因子をもつこと，および，それぞれの関係から母性意識の傾向をよみとることができた。

つぎに，内部相関の結果の意味を裏づけすることによって，母性意識の構造を解明することを試みた。

母性意識として，意識が前面に出される項目は，E育児観・社会観に含まれる各項目である。そこで，育児観・社会観の強くうちだされる2項目を選び，それぞれについて，上位群と下位群では，どうちがうかを検討することとした。選択した2項目のひとつは，「E 3.乳児をもつ母親が職業をもつことをどう思うか」もうひとつは「E 8.育児が大変で赤ちゃんがいない方がよいと思うか」である。前者は，職業意識と育児，後者は育児拒否と育児に関するものである。

1)職業意識と育児態度

《赤ちゃんのいる母親が職業をもつこと》（E 3）は「望ましくない」「望ましい」を5段階に評価される。「どちらともいえない」と回答したものを除き，「望ましい」側の回答をしたものと，「望ましくない」側の回答をしたものの両群について比較してみる。総数1,718のうち，「どちらともいえない」は，643名（37.4%）である。残りの1,075（62.6%）の内訳はつぎのように

なる。

	A群（望ましくない）	B群（望ましい）
東　京	280	95
中都市	248	83
郡　部	299	70
計	827	248

（前掲　表E－3参照）

A群・B群について，A～Dの32項目それぞれの段階別回答数と%を求め，χ^2検定をおこなった。

記入者についてみると，「年令」「職業あるものの職種」「結婚年数」「夫との年令差」には二群間に統計的有意の差がみられなかった。

最終学歴では両群に差があり，中学卒と短大卒は，職業否定のA群に多く，高校卒と大学卒は職業肯定のB群に多い。学歴が高くなるにつれて一定の傾向があるのではなく，短大卒がA群に偏っているのは，専門的能力を求めるよりも家庭人としての教養を求めて短大へ進むものが多いからであろう（第4表－1）。

第4表－1　最終学歴

	中学校	高校卒	短大卒	大学卒	計
A　群	225 (27.5)%	469 (57.3)	98 (11.9)	27 (3.3)	819 (100.0)
B　群	56 (22.9)	155 (63.3)	18 (7.3)	16 (6.5)	245 (100.0)
計	281 (26.4)	624 (58.6)	116 (10.9)	43 (4.1)	1064 (100.0)

.05＞P＞.01

職業をもたないものについて，「勤めたことがない」「結婚前まで勤めていた」「結婚後も勤めていた」に分類してみたのが第4表－2である。A群は勤めた経験のないものが，B群（4%）の倍以上の11%になっている。結婚後も勤めていたものはB群より11%も少なくなっている。すなわち，現在職業をもっていない母親のうち，職業否定群は，職業肯定群より就職経験のないものが多く，就職していても結婚前に辞めてしまうものが多いといえる。職業肯定群の母親は，現在自分が職業をもっていなくても，乳児があって職業をもつことを望ましいと考えており，その数は166名で職業なし総数1,203名（第2表－4）の14%に相当する。

家族について，「家族数」「夫との同居・別居」「子ども数」「同居家族」「主に育児をする人」いずれも両群に有意差はなかった。また環境についての「周囲の環境」「家屋状況」でも両群に差はみられない。

第4表－2　職業なし

	勤めたことがない	結婚前は勤めていた	結婚後も勤めていた	計
A　群	60 (10.6)%	374 (66.1)	132 (23.3)	566 (100.0)
B　群	7 (4.2)	94 (56.6)	65 (39.2)	166 (100.0)
計	67 (9.2)	468 (63.9)	197 (26.9)	732 (100.0)

.01＞P

A1.子ども時代の雰囲気，A2.子ども時代の父親の愛情，A3.子ども時代の母親の愛情――以上3項目は両群に有意差がない。A4.少女時代に赤ちゃんをみてどう感じたかは有意差がみられ，第4表－3のようになっている。職業否定群の方が「大変かわいい」「大変うるさい」と感じたものが多く，職業肯定群では「かわいい」「うるさい」と2と4の段階に偏っている。

第4表－3　少女時代，赤ちゃんを見るとどのように感じましたか（A－4）

	かわいい			うるさい		
	1	2	3	4	5	計
A　群	544 (66.2)%	137 (16.7)	86 (10.5)	21 (2.5)	34 (4.1)	822 (100.0)
B　群	143 (57.7)	52 (21.0)	32 (12.9)	13 (5.2)	8 (3.2)	248 (100.0)
計	687 (64.2)	189 (17.7)	118 (11.0)	34 (3.2)	42 (3.9)	1070 (100.0)

.05＞P＞.01

つぎに差のみられたものは，夫への満足度である。職業否定群は，「大変満足」が職業肯定群よりやや多い。「不満足」は全体に少いが，A群2.4%，B群6.9%でB群が多い。また，夫の家事や育児に対する態度も似たような傾向がみられ両群に有意差が出ている（第4表－5）第4表－6は子どもが生れることによって，夫の世話がいき届かなくなったことをどう感ずるかについての両群の比較である。「気にかからない」がB群の方がやや多く，「気にかかる」はA群の方が多い。

乳児の養育に関する項目では，10項目のうち，つぎの4項目に有意差がみられた（第4表－7～10）。第4表－7赤ちゃんの夜泣きに関しては，職業肯定群が赤ちゃんが「大変かわいそう」と「腹が立つ」の両方に多く，職業否定群が「どちらともいえない」に多い。つぎの第

第4表—4　現在，自分の夫に対してどう感じますか（B—2）

	満足			不満足		
	1	2	3	4	5	計
A群	499 (60.0)%	224 (27.2)	82 (9.9)	16 (1.9)	4 (0.5)	825 (100.0)
B群	133 (53.8)	74 (30.0)	23 (9.3)	8 (3.2)	9 (3.7)	247 (100.0)
計	632 (59.0)	298 (27.8)	105 (9.8)	24 (2.2)	13 (1.2)	1072 (100.0)

.001＞P

第4表—5　夫の家事や育児に対する態度をどう感じますか（B—5）

	思いやりがある			思いやりがない		
	1	2	3	4	5	計
A群	415 (50.8)%	237 (29.0)	110 (13.5)	38 (4.6)	17 (2.1)	817 (100.0)
B群	120 (49.2)	65 (26.6)	33 (13.5)	11 (4.5)	15 (6.2)	244 (100.0)
計	535 (50.4)	302 (28.5)	143 (13.5)	49 (4.6)	32 (3.0)	1061 (100.0)

.05＞P＞.01

第4表—6　子供が生まれることによる夫の世話の不行きとどきをどう感じますか（B—9）

	気にかからない			気にかかる		
	1	2	3	4	5	計
A群	47 (5.7)%	37 (4.5)	137 (16.7)	318 (38.7)	282 (34.4)	821 (100.0)
B群	20 (8.2)	14 (5.7)	42 (17.2)	86 (35.3)	82 (33.1)	244 (100.0)
計	67 (6.3)	51 (4.8)	179 (16.8)	404 (37.9)	364 (34.2)	1065 (100.0)

.001＞P

第4表—7　赤ちゃんに泣かれて夜中に何度も起こされることをどう感じますか（C—5）

	赤ちゃんがかわいそう			腹がたつ		
	1	2	3	4	5	計
A群	208 (25.6)%	186 (22.9)	260 (32.0)	128 (15.7)	31 (3.8)	813 (100.0)
B群	78 (31.8)	56 (22.9)	52 (21.2)	48 (19.6)	11 (4.5)	245 (100.0)
計	286 (27.0)	242 (22.9)	312 (29.5)	176 (16.6)	42 (4.0)	1058 (100.0)

.05＞P＞.01

表4—8　赤ちゃんが汚れたおむつをしていることをどう感じますか（C—7）

	赤ちゃんがかわいそう			気にならない		
	1	2	3	4	5	計
A群	718 (87.1)%	89 (10.8)	14 (1.7)	2 (0.2)	2 (0.2)	825 (100.0)
B群	206 (83.4)	32 (13.0)	8 (3.2)	0 (0.0)	1 (0.4)	247 (100.0)
計	924 (86.2)	121 (11.3)	22 (2.0)	2 (0.2)	3 (0.3)	1072 (100.0)

.01＞P

度4表—9　汚れたおむつを扱う時どう感じますか（C—8）

	気にならない			きたない		
	1	2	3	4	5	計
A群	670 (81.2)%	67 (8.1)	52 (6.3)	22 (2.7)	14 (1.7)	825 (100.0)
B群	191 (77.3)	25 (10.1)	14 (5.7)	12 (4.9)	5 (2.0)	247 (100.0)
計	861 (80.3)	92 (8.6)	66 (6.1)	34 (3.2)	19 (1.8)	1072 (100.0)

.01＞P

表4—8では，汚れたおむつをしている乳児をみて「大変かわいそう」に思うものが殆んどであるが，B群の方が「かわいそう」「どちらともいえない」にやや移動している。第4表—9汚れたおむつを扱かう時，「気にならない」か，「きたない」と思うかの回答は，「汚ない」と思うのはB群7％，A群4％でややB群に多く，「全く気にならない」という答えはA群の方が多くなっている。つぎの第4表—10の乳児を入浴させるのが楽しいか，わずらわしいかについては，「楽しい」「どちらともいえない」は両群殆んど同じである。そして，「大変楽しい」がA群にやや多く，「わずらわしい」はB群が多くなっている。D乳児への働らきかけでは，スキンシップ，あ

第4表—10　赤ちゃんを入浴させるときどう感じますか（C—9）

	楽し い			わずらわしい		
	1	2	3	4	5	計
A 群	629 (79.5)%	126 (15.3)	63 (7.7)	3 (0.4)	1 (0.1)	825 (100.0)
B 群	184 (74.5)	37 (15.0)	19 (7.7)	7 (2.8)	0 (0.0)	247 (100.0)
計	813 (76.1)	163 (15.2)	82 (7.7)	10 (0.9)	1 (0.1)	1069 (100.0)

.05＞P＞.01

第4表—11　赤ちゃんのミルクやおむつ替えの時，赤ちゃんについ，話しかけてしまいますか（D—1）

	する			しない		
	よくすると思う	する方だと思う	どちらともいえない	しない方だと思う	全くしない	計
A 群	544 (65.8)%	234 (28.3)	34 (4.1)	13 (1.6)	2 (0.2)	827 (100.0)
B 群	167 (68.2)	58 (23.7)	15 (6.1)	4 (1.6)	1 (0.4)	245 (100.0)
計	711 (66.3)	292 (27.2)	49 (4.6)	17 (1.6)	3 (0.3)	1072 (100.0)

.01＞P

そんでやる，子守唄をうたうなどの4項目は両群に有意差はなく，第4表—11授乳やおむつ替えのとき，赤ちゃんについ話しかけてしまうか——は有意差がみられた。これは表にみるように，職業肯定群の方が「よく話しかける」ことが多く，Cの養育の世話の場合の各項とはちがった結果になっている。

2)乳児拒否の母親の育児態度

《育児が大変で赤ちゃんがいない方がよかったと思うこと》（E8）が「いつも思う」から「まったく考えたことがない」まで5段階にチェックされる。「まったくない」をA群，「いつも」と「しばしば」思うものをB群として，両群の差を検討する。A～Dの32項目について，それぞれの段階別の回答数を求め，x^2 検定によって有意差をみていく。A群，B群の数はつぎのようになる。

乳児を拒否する母親は数少なく34名にすぎないが，A群とは明らかなちがいがあり，全項目にわたって，乳児にとって否定的，あるいはマイナスの回答が出されている。これらの項目ひとつひとつについては，第5表—1～18に示す通りである。何れも，B群（拒否群）が乳児にとって不都合な回答が多く，その差も10%～20%と大きな開きがあり，一見して表を読みとれる。したがって，項目ごとの言及をさけて表示にゆづり，結果を概括してみよう。

	A群	B群
東 京	307	9
中都市	267	14
郡 部	312	11
計	886	34

（前掲　表E—8参照）

乳児を拒否しているB群の母親は数は少なく全体の2%である。母親の年令，学歴，職業，結婚年数，夫との年令差のいずれも，A群と差がない。また，子どもの数，家族数，祖父母との同居など，ともに差はみられない。居住環境や家族の状況にも差はない。

母親が子ども時代の家庭の雰囲気や父母の愛情は，A

第5表—1　現在心を占めているのは夫より子供の方が…（B—10）

	大き い			小さい		
	1	2	3	4	5	計
A 群	282 (32.3)%	278 (31.8)	287 (32.8)	18 (2.1)	9 (2.0)	874 (100.0)
B 群	15 (44.1)	9 (26.5)	8 (23.6)	1 (2.9)	1 (2.9)	34 (100.0)
計	297 (32.7)	287 (31.6)	295 (32.5)	19 (2.1)	10 (2.1)	908 (100.0)

.50＞P＞.30

第5表—2　少女時代，赤ちゃんを見るとどのように感じましたが（A—4）

	かわいい			うるさい		
	1	2	3	4	5	計
A 群	599 (67.6)%	159 (17.9)	81 (9.2)	25 (2.8)	22 (2.5)	886 (100.0)
B 群	15 (45.4)	6 (18.2)	5 (15.2)	2 (6.0)	5 (15.2)	33 (100.0)
計	614 (66.8)	165 (18.0)	86 (9.4)	27 (2.9)	27 (2.9)	919 (100.0)

.001＞P

第5表―3　少女時代，小さい子と遊ぶことをどう思いましたか（A―5）

	楽し い			わずらわしい		
	1	2	3	4	5	計
A 群	476 (54.0)%	181 (20.6)	153 (17.1)	46 (5.2)	25 (2.8)	881 (100.0)
B 群	16 (48.5)	4 (12.1)	3 (9.1)	3 (9.1)	7 (21.2)	33 (100.0)
計	492 (53.8)	185 (20.0)	156 (17.1)	49 (5.2)	32 (3.5)	914 (100.0)

.001＞P

第5表―4　少女時代，将来母親になることについてどう思いましたか（A―6）

	期待していた			いやだった		
	1	2	3	4	5	計
A 群	394 (44.9)%	179 (20.4)	279 (31.8)	15 (1.7)	10 (1.2)	877 (100.0)
B 群	11 (33.3)	5 (15.1)	9 (27.3)	2 (6.1)	6 (18.2)	33 (100.0)
計	405 (44.4)	184 (20.2)	288 (31.6)	17 (1.9)	16 (1.8)	910 (100.0)

.001＞P

第5表―5　少女時代に赤ちゃんを抱いたことがありますか（A―7）

	あ る			な い		
	よくしたと思う	した方だと思う	どちらともいえない	しない方だと思う	全くしなかった	計
A 群	432 (49.0)%	225 (25.5)	85 (9.6)	90 (10.2)	50 (5.7)	882 (100.0)
B 群	11 (33.3)	9 (27.3)	1 (3.0)	8 (24.3)	4 (12.1)	33 (100.0)
計	443 (48.4)	234 (25.6)	86 (9.4)	98 (10.7)	54 (5.9)	915 (100.0)

.025＞P＞.02

群と変らないが母親自身が少女の時期に，乳児に接したり，子どもと遊んだことがない母親はB群に多く，A群と大きなちがいがある。B群の母親は，少女期に将来母になることをいやがっていたものが多い。

第5表―6　現在の夫と性生活をどう感じていますか（B―4）

	満 足			不 満 足		
	1	2	3	4	5	計
A 群	447 (51.9)%	203 (23.6)	191 (22.2)	14 (1.6)	6 (0.7)	861 (100.0)
B 群	15 (45.5)	6 (18.2)	10 (30.3)	0 (0.0)	2 (6.0)	33 (100.0)
計	462 (51.7)	209 (23.4)	201 (22.5)	14 (1.6)	8 (0.8)	894 (100.0)

.02＞P＞.01

第5表―7　夫の家事や育児に対する態度をどう感じますか（B―5）

	思いやりがある			思いやりがない		
	1	2	3	4	5	計
A 群	488 (56.1)%	238 (27.3)	104 (11.9)	27 (3.1)	14 (1.6)	871 (100.0)
B 群	20 (60.7)	8 (24.2)	1 (3.0)	1 (3.0)	3 (9.1)	33 (100.0)
計	508 (56.2)	246 (27.2)	105 (11.6)	28 (3.1)	17 (1.9)	904 (100.0)

.02＞P＞.01

第5表―8　現在の赤ちゃんが妊娠した時どう感じましたか（B―6）

	う れ し い			困 っ た		
	1	2	3	4	5	計
A 群	639 (72.6)%	143 (16.3)	65 (7.4)	17 (1.9)	16 (1.8)	880 (100.0)
B 群	17 (50.0)	8 (23.5)	6 (17.7)	1 (2.9)	2 (5.9)	34 (100.0)
計	656 (71.8)	151 (16.5)	71 (7.7)	18 (2.0)	18 (2.0)	914 (100.0)

.05＞P＞.25

夫との性生活や夫の収入に不満なものが，乳児拒否の母親に多くみられる。夫の思いやりに関しては，A群と比べてB群は両極――大変思いやりがある，まったくない――に分散している。現在の乳児を妊娠したとき，A

第5表—9　現在の夫の収入に対しどう感じていますか（B—11）

	満足			不満足		
	1	2	3	4	5	計
A群	326 (37.0)%	232 (26.4)	194 (22.0)	73 (8.3)	55 (6.3)	880 (100.0)
B群	9 (27.3)%	5 (15.1)	9 (27.3)	3 (9.1)	7 (21.2)	33 (100.0)
計	335 (36.7)	237 (26.0)	203 (22.2)	76 (8.3)	62 (6.8)	913 (100.0)

.02＞P＞.01

第5表—10　手づくりの離乳食を作ることについてどう感じますか（C2）

	楽しい			わずらわしい		
	1	2	3	4	5	計
A群	380 (43.7)%	244 (28.1)	184 (21.2)	49 (5.6)	12 (1.4)	869 (100.0)
B群	7 (21.2)	8 (24.2)	9 (27.3)	4 (12.1)	5 (15.2)	33 (100.0)
計	387 (42.9)	252 (27.9)	193 (21.4)	53 (5.9)	17 (1.9)	902 (100.0)

.001＞P

第5表—11　赤ちゃんが食べ残したものを食べることについてどう感じますか（C—4）

	気にならない			きたない		
	1	2	3	4	5	計
A群	570 (65.9)%	131 (15.1)	127 (14.7)	31 (3.6)	6 (0.7)	865 (100.0)
B群	15 (45.5)	6 (18.2)	5 (15.1)	4 (12.1)	3 (9.1)	33 (100.0)
計	385 (65.1)	137 (15.3)	132 (14.7)	35 (3.9)	9 (1.0)	898 (100.0)

.001＞P

第5表—12　赤ちゃんに泣かれて夜中に何度も起こされることをどう感じますか（C—5）

	赤ちゃんがかわいそう			腹がたつ		
	1	2	3	4	5	計
A群	272 (31.3)%	223 (25.6)	265 (30.4)	93 (10.7)	17 (2.0)	870 (100.0)
B群	9 (26.5)%	4 (11.8)	6 (17.6)	8 (23.5)	7 (20.6)	34 (100.0)
計	281 (31.1)	227 (25.1)	271 (30.0)	101 (11.2)	24 (2.6)	904 (100.0)

.001＞P

第5表—13　夜中の授乳やおむつ替えをどう感じますか（C—6）

	気にならない			わずらわしい		
	1	2	3	4	5	計
A群	469 (53.4)%	189 (21.5)	124 (14.1)	91 (10.3)	6 (0.7)	879 (100.0)
B群	10 (29.4)	4 (11.8)	4 (11.8)	9 (26.5)	7 (20.5)	34 (100.0)
計	479 (52.5)	193 (21.1)	128 (14.0)	100 (11.0)	13 (1.4)	913 (100.0)

.001＞P

第5表—14　赤ちゃんが汚れたおむつをしていることをどう感じますか（C—7）

	赤ちゃんがかわいそう			気にならない		
	1	2	3	4	5	計
A群	780 (88.4)%	88 (10.0)	12 (1.4)	0 (0.0)	2 (0.2)	882 (100.0)
B群	28 (84.9)	3 (9.1)	1 (3.0)	1 (3.0)	0 (0.0)	33 (100.0)
計	808 (88.3)	91 (10.0)	13 (1.4)	1 (0.1)	2 (0.2)	915 (100.0)

.001＞P

群は喜んでいるもの90%に対し，B群は75%弱である。

乳児拒否の母親は，A群の母親とくらべ，離乳食づくり，入浴，夜中の授乳やおむつ替えをわづらわしく思っているものが多い。乳児の食べ残したものを食べるのは汚ないと思い，夜中に何度も起こされると腹が立つ母親がA群より，ぐんと多い。赤ちゃんがひどく泣くときはA群が「大変心配」が多いのに，B群は「やや心配」が多い。

第5表—15　赤ちゃんを入浴させるときどう感じますか（C—9）

	楽し い		わずらわしい			
	1	2	3	4	5	計
A 群	705 (79.9)%	123 (13.9)	53 (6.0)	0 (0.0)	1 (0.2)	882 (100.0)
B 群	22 (64.7)	6 (17.6)	4 (11.8)	2 (5.9)	0 (0.0)	34 (100.0)
計	727 (79.4)	129 (14.1)	57 (6.2)	2 (0.2)	1 (0.1)	916 (100.0)

.001＞P

第5表—16　赤ちゃんの泣き方がひどい場合どのように感じますか（C—10）

	心配		うるさい			
	1	2	3	4	5	計
A 群	740 (83.5)%	99 (11.2)	34 (3.8)	9 (1.0)	4 (0.5)	884 (100.0)
B 群	20 (58.8)	11 (32.4)	3 (8.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	34 (100.0)
計	760 (82.6)	110 (12.0)	37 (4.0)	9 (1.0)	4 (0.4)	920 (100.0)

.005＞P＞.001

乳児とのあそびやスキンシップもA群にくらべて，B群では大変少なくなっている。両群に有意差のない項目については，とりあげることを省略したが，ひとつ見逃せない項目がある。それは，つぎのB—10現在，心を占めているのは，夫か，子どもか——の問に対する回答である。乳児を拒否しているB群は，子どもへのウエイトが少ないかと思うと，むしろ，反対である。夫より子どもの方が大きいものは，B群の方がA群より12%も外いのである。A群は「子どもの方が大きい」「ややそうである」「どちらともいえない」がほぼ30，%づつになっている。B群は「子どもの方が大きい」にかたよっているのである。ここで注目すべきことは，「子どもがいなかったらよい」と思う母親が，必らずしも，乳児をないがしろにしてはいないということである。むしろ，いつも心にかかっているといえよう。子どもに集中していながら，育児へのゆとりのない態度がうかがえる。

第5表—17　赤ちゃんの身体を思わず撫でたりさわったり，ほほずりしたりしますか（D—2）

	する			しない		
	よくすると思う	する方だと思う	どちらともいえない	しない方だと思う	全くしない	計
A 群	723 (81.6)%	131 (14.8)	30 (3.4)	2 (0.2)	0 (0.0)	886 (100.0)
B 群	22 (64.7)	5 (14.7)	1 (2.9)	4 (11.8)	2 (5.9)	34 (100.0)
計	745 (81.0)	136 (14.8)	31 (3.4)	6 (0.6)	2 (0.2)	920 (100.0)

.001＞P

第5表—18「イナイ，イナイ，バア」など赤ちゃんとの遊びをよくしますか（D—4）

	する			しない		
	よくすると思う	する方だと思う	どちらともいえない	しない方だと思う	全くしない	計
A 群	552 (62.9)%	236 (26.9)	64 (7.3)	10 (1.1)	16 (1.8)	878 (100.0)
B 群	20 (62.5)	8 (25.1)	0 (0.0)	2 (6.2)	2 (6.2)	32 (100.0)
計	572 (62.9)	244 (26.8)	64 (7.0)	12 (1.3)	18 (2.0)	910 (100.0)

.025＞P.02

ここで，内部相関による分析7)Bd の裏づけとなるものがみいだされる。すなわち，他の各グループとまったく相関のみられなかったものが，「夫より子どもへの傾斜」ただひとつであった。「夫より子ども」に強く傾斜しているものには，子どもとあそんだり，楽しんで育児したりせず，夫とも相談できずに，ただ子どもが気がかりで，「乳児がいない方がよい」と思う危険な母親も含まれているといってよいであろう。

Ⅳ　総括および考察

以上の結果を総括しながら，母性意識の構造の分析および実態について考察する。

1.　まず，大都市（東京）・中都市・郡部の三群に分けて検討した。これは，ひとつには，現代の親の母性意識をより実態に即応して把握するためであり，また，社会変動の一要因である都市化現象の流動の上にたって母

性意識を究明するためである。

1)母親の年令，学歴は都市ほど高くなっている。東京は子どもひとりが多く，郡部は結婚年数が高くなっている。しかし，子ども数・結婚年数は，全国の実態ではない。乳児検診で保健所を利用する母親の実態である。祖父母同居は郡部に多く，祖母が育児担当しているのも農村に多い。有職者は，郡部で53%，中都市29%，東京13%で，乳児をもって働らいている母親は，都市ほど少なくなっている。

2)母親自身が子どもの頃，家庭の雰囲気が暖かく，父母の愛をうけていたと答えたものは都会ほど高くなっている。母親自身が少女時代に年少の子をよく遊んでやったと答えたものは50%内外で都鄙別の傾向はないが，乳児の世話をしたことがあるものは農村部ほど多い。全く世話をしたことがないものは，東京29%，中都市26%，郡部23%である。都市の住居環境，核家族化の傾向が乳児と接触する機会を少なくしているといえよう。母親自身が少女の頃，将来自分が母親になることを期待していたものは，中都市に多く，東京と郡部はほぼ同じである。これは他の項目とちがう結果である。中都市では母親の座の肯定的評価が高いともいえる。一方，東京と比較して，職業選択も含めた成人女性のイメージが貧困であるとも考えられる。郡部は東京と数字こそ同じであるが，質的にはちがうものがあろう。すなわち，母の生活のきびしさが，少女たちの母への期待を少なくしていると思われる。

現在，夫との結びつきや家庭の雰囲気が暖かいと答えるものは都会ほど多く，いわゆるマイホーム的傾向がうかがえる。現在の乳児（乳児検診対象の子）を妊娠したとき，喜んでいるものは80%前後であり，都会ほどその数は多い。困ったと答えたものは農村の方が多い。これは，東京のばあいは第1子が非常に多いことを含んで考えられなければならないだろう。妊娠中の健康や月経の時の変調については都鄙の差はないが，幾分農村の母親の方が母体として健康である。月経の時，気分の変りやすいものが，三群とも32%前後の高率を示している。

夫と子どもとどちらが母親の心を占めているかをみると，65%のものが子どもに比重がかかっている。そして，子どものために夫の世話が行きとどかなくなったことについては，70%が気がかりであると答えている。都鄙別の差はみられない。多くの母親は，夫の世話がいきとどかなくなったことを意識し，気にしながら，なお，夫より子どもの方に心が傾斜しているといえよう。

乳児の養育の実際に関しては，乳児の食べ残しを食べることが気にならないのは都鄙別の差はないが，離乳食づくり，授乳などは，都市の方が楽しんでいる結果がでている。都会の生活のゆとりが楽しんで育児をさせることにつながっているのであろう。乳児がひどく泣く時の不安は農山村部に強く，医療施設の不備を知らされる。

乳児へのスキンシップや話しかけでは，大差ないが都会の方に多い。乳児とあそんでやるのは有意差をもって都会が多い。ここでも農村の母親のゆとりのなさがみられる。全体の一割ぐらいの母親は，子どもが泣かないと抱かなかったり，あやしたりしていない。35%の母親は子守唄をうたわない。全般に，母親たちは，乳児の養育や世話には懸命だが，乳児の心への働らきかけは少ないということができよう。

社会に出て働らくことと育児をすることでは，育児の方が楽しいというもの51%，どちらともいえないというもの40%，残りの一割弱が育児の方がつまらないと答えている。育児の方が楽しいものは都会ほど多く，育児はつまらないという回答は郡部に多い（東京5.7%，郡部10%）。ところが，乳児をもつ母親が職業をもつことについては，都会の方が肯定的意見が多く（都市16%，郡部11%），有意差がみられている。すなわち，都会の母親は，社会に出て働らくより育児の方が楽しいといいながら，乳児をもつ母親が職業をもつことは肯定する傾向がみられるのである。考え方として職業を肯定し，心情的には育児に傾斜している母親が東京や中都市に多いといえよう。母親自身の楽しみのために乳児を預けて出かけることについても，東京・中都市・郡部の順に否定的意見が強くなる。ここに，農山村部の母親自身の主体性に対する保守的考えがうかがわれる。

育児が大変なので乳児がいない方がよかったと思うものはきわめて少ない。しかし，乳児がいない方がよいと「いつも思う」もの，「しばしば思う」ものを含めて2%の母親がいる。数こそ少ないが，乳児をうとんじているこの母親たちは《危険な母親》なのである。

2. 内部相関によって，母性意識の構造の分析を試みた。各小項目の類似項をまとめて，12のグループとして相互の相関を出した。

1)少女期に年少の子と遊んだ経験をもつ母親と，自分が母親となった現在，乳児へのスキンシップや話しかけ，そしてあそびをよくしてやる母親ともっとも高い相関がみられた。母親の愛情ある子どもへの働らきかけが，乳児の情緒を安定させ，周囲の人や物への関心をさそい出すのである。母と子の交流をもつ，望ましい母親となるためには，母親自身が少女期に乳幼児に接触し，世話をしたり遊んでやる機会をもつことが積極的要件として高く評価されてよいであろう。

2)相関関係のつよさから，もうひとつの母性像がうかびあがる。それは，夫との調和度が高く，社会に出て働らくより育児，自分自身のことより育児を大切に考え，乳児の世話をよくしているタイプである。一見理想的な母性のイメージであるが，どちらかといえば育児埋没型で，育児に熱中しながら，乳児そのものへの望ましい形での働らきかけがおろそかであり，ここに，現実のわが子の存在ぬきに育児書にたよる現代の母親のひとつの姿をみることができよう。

3.　母性意識として，意識が前景に出されているもののうち，特徴的な二つをとりあげた。すなわち，職業意識と乳児拒否である。それぞれについて，上位群・下位群に分けてその育児態度を分析した。

1)職業意識と育児態度　乳児がいる母親が職業をもつことを望ましいと答えたものを職業肯定群とし，他方を職業否定群とした。職業否定群は中学卒と短大卒に多く，職業肯定は高校卒と大学卒に多い。これは，短大進学するものに，専門能力より家庭人の教養を求めているものが多いことのあらわれであろう。就職経験のあるものほど職業肯定が多い。母親の子ども時代の家庭の暖かさや少女期の年少児への接触は変りない。夫との調和，夫の思いやりは職業否定群に高い。乳児の世話を楽しんでいるのは職業否定群に多いが，乳児への働らきかけはやや職業肯定群に多い。内部相関でもこの傾向はみられた。つまり，職業意識のある母親は，育児一辺倒の母親より乳児の世話はいきとどかないが，乳児とのあそびやスキンシップは逆によくしているのである。

2)乳児拒否と育児態度　自分の子どもの存在をうとんでいる母親をとりあげた。このような母親は，年令や学歴，職業，子どもの数，家族構成とは無関係に現われる。乳児拒否の母親は，子ども時代の家庭環境が冷たく，少女期に小さい子と接触する機会がなく，将来自分が母親になることをいやがっていたものが多い。夫への不満があり，妊娠したことを喜ばなかったものも多くみられる。乳児の養育をわずらわしいと思い，子どもに働らきかけることは非常に少ない。こうして拒否群は，乳児にたいして否定的な態度をとりながら，子どもがいなかったらよいと思っているのである。しかし，ここで見逃すことのできない事実は，夫よりも子どもに心をうばわれていることである。このことは，内部相関で，夫よりも子どもにウエイトのあるものが，他の項とまったく相関がなく，逆相関が多かったことを意味づけてくれる。わが子を拒否している母親は，わずか2％であるが，子どもが気がかりであってなお，子どもをうとましく思う《危険な母親》の存在を示している。

×　×　×

以上，母性意識の実態にふれるため，現に育児にもっとも時間を費している乳児の母親の母性意識を考察した。農村部と都市部では大差なく，そこに農村の都市化をみることができた。しかし，都市では，楽しんで育児をしているものが多く，農山村部では職業をもつ母親が多く生活のきびしさがうかがえる。また，母親自身の主体性などに関しては，農村における保守的な考えが明らかであった。

子ども時代の暖かな愛情ある家庭――そこからは《危険な母親》は生みだされていない。子ども時代の家庭環境が将来の母性への土台ともなることを示唆している。また，より豊かな母性を発揮するためには，少女時代から小さい子の世話をしたり遊んでやることが第一の要因であることが認められたのである。自分の子のように全責任を負って育児するのではなく，心のゆとりをもって乳幼児に接する体験―少女期にこの体験があれば，それによって将来母となったときに，子どもを扱かう自信が生まれ，暖かい自然な態度で子どもに接していくことができるのである。この経験のない母は，真剣に育児にとりくんでいても，実際にはそこに母と子の交流が失われており，育児ノイローゼにつながる危険もはらんでいる。核家族の中で成長する現代の子どもは，小さな子と接したりする機会がなくなる傾向にある。それだけに，このような機会を積極的・意識的にもたせていく必要があろう。

〔本研究の実施に御協力いただいた東京都，石川県及び高知県の関係保健所の職員の方々に厚く御礼申上げます。〕

〔附〕 質問紙

この調査は赤ちゃんを持つお母さんの感じ方や考え方を知ることを目的としています。無記名でよろしいですから卒直な御意見をお聞かせ下さい。

日本総合愛育研究所

該当するものに○印，又は（　）内にご記入下さい。

都　　区　　町
　　郡
＿＿＿＿県＿＿＿＿市＿＿＿＿村

A．記入者について

- 年令　(1)20才未満　(2)20～24才　(3)25～29才　(4)30～39才　(5)40才以上
- 最終学歴　(1)中学卒　(2)高校卒　(3)短大卒　(4)大学卒
- 職業　a職業あり　(1)毎日勤めに出る　(2)パートで働きに出る
  (3)自営業（農業・商業等）　(4)内職
  b職業なし　(1)勤めたことがない　(2)結婚前は勤めていた
  (3)結婚後も職業を持っていた
- 結婚年数　(1)2年未満　(2)3～5年　(3)6～10年　(4)11年以上
- 夫との年令差　(1)夫より年下　(2)同年　(3)夫より年上

B．家族について

- 家族数　(1)2人　(2)3人　(3)4人　(4)5人　(5)6人　(6)7人　(7)8人以上（　）人
- 夫　(1)同居　(2)仕事の都合で別居中　(3)その他の理由で別居　(4)離婚　(5)死別
- 子ども

	年　令	性　別
第　1　子	才　月	男・女
第　2　子	才　月	男・女
第　3　子	才　月	男・女
第　4　子	才　月	男・女
第　5　子	才　月	男・女

- その他の同居家族　父母の　(1)祖父　(2)祖母　(3)その他の身内（　）
  母方の　(1)祖父　(2)祖母　(3)その他の身内（　）
- その他の同居人　(1)住込みの従業員　(2)お手伝い　(3)その他（　）
- 主に育児をする人　(1)母　(2)祖母　(3)その他の家人　(4)使用人　(5)その他（　）

C．環境について

- 周囲の環境　(1)農・山・漁村　(2)工場街　(3)商店街　(4)団地　(5)住宅街
- 家屋状況　(1)一戸建　(2)鉄筋アパート　(3)木造アパート　(4)借間

次の項目について，あなたの気持ちに最もぴったりするところに○印をつけて下さい。

記入例

○　あなたが現在の赤ちゃんを妊娠している時心や身体の調子はどうでしたか

	全くそう感じた	ややそう感じた	どちらともいえない	ややそう感じた	全くそう感じた	
快調				○		調子が悪い

A　1.　あなたの子ども時代，あなたの家庭の雰囲気はどうでしたか

	全くそう感じた	ややそう感じた	どちらともいえない	ややそう感じた	全くそう感じた	
暖かい						冷たい

2.　あなたの子ども時代，あなたは父親からどのように扱われましたか

かわいがられた　―――――　かわいがられない

3.　あなたの子ども時代，あなたは母親からどのように扱われましたか

かわいがられた　―――――　かわいがられない

4.　あなたは少女時代，赤ちゃんを見るとどのように感じましたか

かわいい　―――――　うるさい

5.　あなたは少女時代，小さい子と遊ぶことをどう思いましたか

楽しい　―――――　わずらわしい

6.　あなたは少女時代，将来母になることについてどう思いましたか

期待していた　―――――　いやだった

	よくしたと思う	した方だと思う	どちらともいえない	しない方だと思う	全くしなかった	
ある						ない

7.　あなたは少女時代，赤ちゃんを抱いたことがありますか

8.　あなたは少女時代，赤ちゃんの世話をしたことがありますか

ある　―――――　ない

	全くそう感ずる	ややそう感ずる	どちらともいえない	ややそう感ずる	全くそう感ずる	
暖かい						冷たい

B　1.　現在あなたの家庭の雰囲気はどうですか

2.　現在あなたは自分の夫に対してどう感じますか

満足　―――――　不満足

3.　夫との結びつきについてどう感じますか

強い　―――――　弱い

			全くそう感じる	ややそう感じる	どちらともいえない	ややそう感ずる	全くそう感ずる	
4.	現在夫との性生活をどう感じていますか	満足						不満足
5.	夫の家事や育児に対する態度をどう感じますか	思いやりがある						思いやりがない
6.	あなたは現在の赤ちゃんを妊娠した時，どう感じましたか	うれしい						困った
7.	あなたが現在の赤ちゃんを妊娠している時，心や身体の調子はどうでしたか	快調						調子が悪い
8,	あなたは月経の時，日頃と比べて気分はどうですか	変らない						変りやすい
9.	子どもが生まれることによって夫の世話がゆきとどかなくなったことについてどう感じますか	気にかかる						気にかからない
10.	現在あなたの心を占めているのは夫より子どもの方が……	大きい						小さい
11.	現在，夫の収入に対し，どう感じていますか	満足						不満足

			全くそう感ずる	ややそう感ずる	どちらともいえない	ややそう感ずる	全くそう感ずる	
C 1.	赤ちゃんに乳房をいじられることをどう感じますか	楽しい						気持ちが悪い
2.	手づくりの離乳食を作ることについてどう感じますか	楽しい						わずらわしい
3.	赤ちゃんがお乳を吐いて衣服を汚した時どのように感じますか	気にならない						きたない
4.	赤ちゃんが食べ残したものを食べることについてどう感じますか	気にならない						きたない
5.	赤ちゃんに泣かれて夜中に何度も起こされることをどう感じますか	赤ちゃんがかわいそう						腹がたつ
6.	夜中の授乳やおむつ替えをどう感じますか	気にならない						わずらわしい

		全くそう感ずる	ややそう感ずる	どちらともいえない	ややそう感ずる	全くそう感ずる	
7.	赤ちゃんが汚れたおむつをしていることをどう感じますか	赤ちゃんがかわいそう					気にならない
8.	汚れたおむつを扱う時どう感じますか	気にならない					きたない
9.	あなたは赤ちゃんを入浴させるときどう感じますか	楽しい					わずらわしい
10.	赤ちゃんの泣き方がひどい場合，どのように感じますか	心配					うるさい

		よくすると思う	する方だと思う	どちらともいえない	しない方だと思う	全くしない	
D 1.	赤ちゃんのミルクやおむつ替えの時，赤ちゃんに，つい話しかけてしまいますか	する					しない
2.	赤ちゃんの身体を思わず撫でたりさわったり，ほほずりしたりしますか	する					しない
3.	赤ちゃんがむずかっていなくても抱いたり，あやしたり，声をかけたりしますか	する					しない
4.	「イナイ，イナイ，バア」など赤ちゃんとの遊びをよくしますか	する					しない
5.	赤ちゃんを寝かせる時，ひとりでに子守唄が口をついて出ますか	する					しない

		全くそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	ややそう思う	全くそう思う	
E 1.	家事をするより育児の方が……	楽しい					わずらわしい
2.	社会に出て働くより育児の方が	楽しい					つまらない
3.	赤ちゃんのいる母親が職業を持つことは……	望ましい					望ましくない
4.	母親が育児をすることは……	当然である					ばかばかしい
5.	あなた自身の楽しみの為に，誰かに赤ちゃんを預けて出かけることをどう思いますか	当然である					いけない
6.	育児の為に，母親のやりたいことが制限されることについてどう思いますか	当然である					残念である

7. 育児から解放されたいと思うことがありますか

まったくない　たまにある　ときどきある　しばしばある　いつもある

8. 育児が大変で赤ちゃんが居ない方がよかったと思うことがありますか

まったくない　たまにある　ときどきある　しばしばある　いつもある